武生労働基準監督署管内　速報値

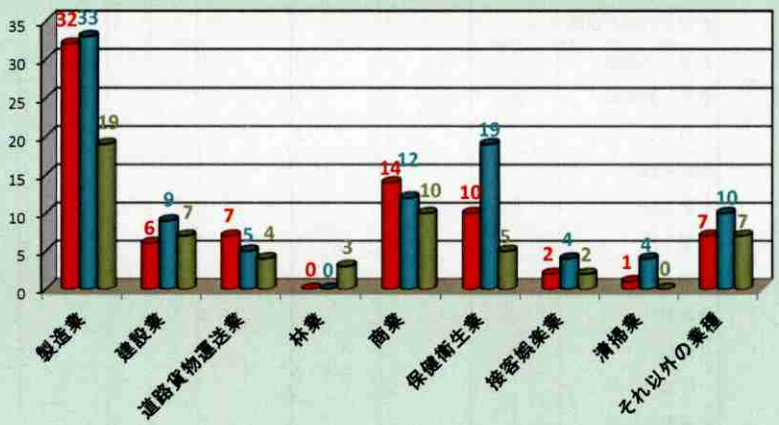
2019年6月末現在 労働災害発生状況

☆対昨年では災害発生件数は減少しているが、減少傾向は鈍化している☆
☆半数が経験年数5年未満の労働者となり、経験が浅い労働者の災害が目立つ☆

1. 災害発生状況

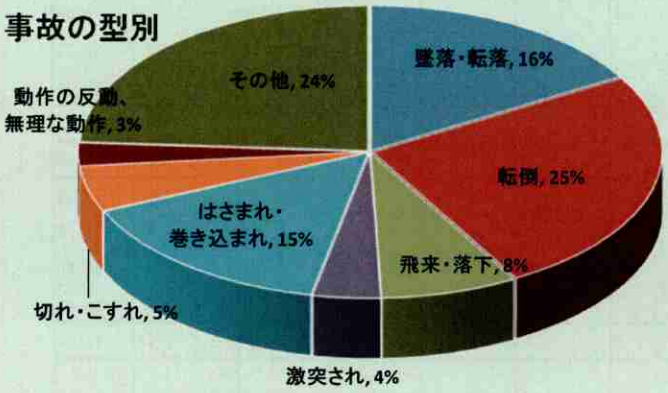
全業種

業種別

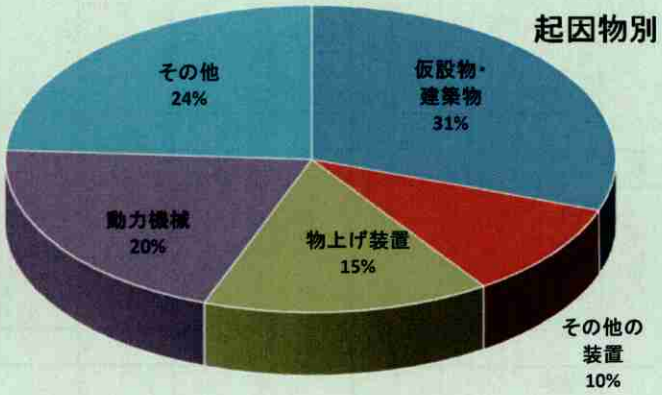


2. 事故の型別・起因物別発生割合

事故の型別



起因物別



3. 月別発生件数推移状況(全業種)

4. 労働災害の動向

死亡災害は、

1件

全体では、
休業4日以上の災害発生件数は平成30年の同時期と比較して約**19%減少**しているがその**減少傾向は鈍化**している(**5月末時点では対昨年比28%減少**)。
災害の種類としては、**転倒災害が約25%**を占め、最も多くなっている。
また、**はさまれ・巻き込まれと切れ・こすれ災害が全体の約20%**を占めるなど、昨年に引き続き**はさまれ・巻き込まれ災害も多発**。

業種別の災害発生の傾向

＜製　造　業＞**経験年数が3年未満の労働者が60%弱**を占め,**経験年数が浅い労働者の災害が目立つ**(30,40代で経験年数1年未満の労働者が20%)。また**はさまれ・巻き込まれ災害が30%**を占めるほか、**溶接の火花や薬品が服・皮膚について「火傷・薬傷」を負う災害**も数件発生している。

＜建　設　業＞**被災者の半数**が**経験年数が3年未満**の**経験年数が浅い労働者**。また**被災者の80%が20,30代**。**被災者の半数**が**はさまれ・巻き込まれ災害**。

＜　商　　業　＞**被災者の約40%割**が**経験年数が10年以上で50代以上の労働者**。全体の**40%を転倒災害が**、**全体の30%を墜落・転落災害**が占める。

＜保健衛生業＞**経験年数が5年以上が70%超**。事故の型は**転倒が50%**で、次いで**墜落・転落災害が20%**を占めている。

武生労働基準監督署